

〈前号のあらすじ〉

小天狗の趣海坊は「人をひとり、天狗にする」という修行のため、目をつけた旅医者徳本と旅をする。二人は、ある集落で病にふせる娘と出会い、また、近くの酒商人の御子柴家に居候しつつ、薬を売り、病人を見て歩く。ある日、賊に狙われて……。



趣海坊天狗譚  
第三回 長谷川まりる

タカタカリ・絵

趣海坊は目だけを右と左に動かして、ひそんでいる他のふたりを確かめました。どうやら右と左に散って、三人で徳本と趣海坊を囲むようになっています。

ふたりの行く手を阻むように立つ侍が、相手を安心させるような声で言いました。

「お屋形様が嘆いておられます。良い医者を逃がしてしま